

早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博士論文概要

論文題目

場所に応答する集住体デザイン手法
に関する研究

A Study on Housing Design
in Response to Characteristics of Site

申請者

田中 友章

Tomoaki Tanaka

建築学専攻・建築意匠論研究

2009年 12月

本研究は、人間が住もうための構築物と外部空間の総体としての集住体について、現代において敷地およびその周辺環境の特性に適確に応答するデザインを可能とするための、建築設計者のための方法論に関する研究である。

少子高齢化が進行し、成長時代から定常化時代へと移行しつつある日本の現代社会においては、時代のニーズに適確に対応するために、新たにつくるための自律的な計画・デザイン論ではなく、先行的に存在する環境や与条件に依拠し、更新・改善・漸進的発展を行っていくためのデザインの方法論が求められている。そこでは、場所の物理的な環境特性と法制度など社会システムの双方を与件として、その文脈に適確に応答する形態や空間像を相互の関係の中から生み出し、個別の場所に対して適確な提案を導く必要がある。加えて、これらの取り組みは、従来とは異なり参加と合意形成を伴うプロセスで進行することが想定されるため、建築設計者の職能範囲にも拡充が求められ、その育成のための建築デザイン教育にも改善と変革が要請される。以上から、本研究では、広範かつ複眼的な視点を持ちながらプロセスに関与することにより、特定の場所における最適解としてのデザインを導き出すために、建築設計者が取るべき方法論を、一つの包括的なモデルとして構築し提示することを目的とする。

本研究は次の7つの章と、各章を要約した終章から構成されている。

序章では、まず研究の背景と目的を述べ、研究の枠組みを明らかにした。1960年代から「近代の見直し」と呼ばれる建築思潮の流れを概観し、敷地および周辺環境への応答に関する理論を中心に、場所への適合を重視するコンテクスチュアリズム等の方法の勃興と変質、ポスト・モダニズムへの包摂などの過程を整理し、本研究の理論的背景と今日的意義を明らかにした。次に「場所に応答する集住体デザイン」について、用語の定義を行い、その像を明らかにした上で、研究を推進するために主軸的な方法として用いる「敷地計画」を提示し、それを発展させて「形態配置レベルのレイアウト」と「区画境界レベルのレイアウト」という双眼的視点を持って、敷地計画のあり方を研究し組織化するための理論的な枠組みを示した。そして、現状の課題を整理し、本研究で対象とする領域を示した上で、研究の方法について、第一に、まとまりのある空間像を創出する集住体の先導的事例の研究により敷地計画の方法を抽出し、第二に、具体の地域を設定して、関連する法制度の運用も含めて、詳細に事例等を研究して、現在の到達点と将来の課題を明らかにし、第三に、実践された取り組みのプロセスと成果を検証して、デザイン方法の発展可能性とそれを担う次代の設計者の職能像を提示し、第四に、その職能を育成するための枠組みを仮説として提示した上で、実践された具体の取り組みを、教育システムと地域への展開の両面から報告し検証する、という一連の方法を提示した。さらに、既往論文等を体系的に示した上で、論文の構成を提示し、本研究の位置づけを行った。

第1章では「集住体の敷地計画に関するデザイン手法の研究」と題して、敷地計画を中心とした可能性を探索する研究を行った。近年に完成した比較的小規模な住宅群からなる計画について、まとまりのある空間像を創出している先導的事例を取り上げ

て、敷地計画、協調的整備の工夫、事業手法について比較研究を行った。序章で提示した双眼的視点から、配棟計画図と敷地区画図を一对で作成して敷地計画を分析することで、良好な整備を生み出すための要点を抽出した。その結果、住宅群やコモンの配置、建物やオープンスペースのデザインについて共通した敷地計画の手法が明らかにした。その上で、共用的空間領域を中心にまとまりのある集住体デザインを実現する方法として、方法1：複数敷地区画にまたがる計画を協定等で協調的・包括的に束ねる方法、方法2：複数建物を一敷地の計画として扱うことで包括的・総合的な計画を実現する方法、の2つが抽出され、以降でより詳細に検討すべき点が整理された。

第2章および第3章では「複数敷地区画の協調的・包括的計画手法の研究」と題して、第1章で抽出された2つの方法について、具体の地域を対象として設定した上で、実践的な活用を前提に、デザインの実体と法制度等とを関連づけて、詳細かつ実証的に研究を行なった。

第2章では、副題を「府中市における景観協定等の活用に関する研究」と題して、研究対象を府中市に設定して、方法1について協定等の活用に関する研究・考察を行った。まず、既往研究を援用して各種協定等を分類・整理し、府中市における景観関係施策の展開の経緯と協定等の運用状況を概観し、その特徴と位置づけを分析した。次に、都市景観審議会の審議プロセスにみられる協議・調整システムの運用実態を分析し、協定等に関わる要点を整理した。その上で、景観法に基づく景観協定の締結事例の研究を行ない、景観協定の基準内容や実現した空間像の特性を明らかにするとともに、協調的・包括的な敷地計画による整備に向けた課題と可能性を考察した。景観協定の扱える事象の広さや包括性などの可能性が評価され、地区計画など他の協定等との併用・役割分担による効果的な活用の可能性が整理され、現状で具体の敷地計画や空間像を伴う方法が未熟な点と、将来へ向けた発展の必要性が指摘された。

第3章では、副題を「川崎市における連担建築物設計制度の活用に関する研究」と題して、研究対象を川崎市に設定して、方法2について連担建築物設計制度の活用に関する研究・考察を行った。まず、一敷地複数建物の総合的計画制度を整理した上で、連担建築物設計制度に着目し、川崎市の制度的特性と運用実態を明らかにして考察した。次に、密集市街地における活用について幸町3丁目を中心にケーススタディを実施し、空間像を伴うシミュレーションを用いた実践的な研究を行なった。結果として、選択肢の得失や関連制度との相関関係が空間像を伴って明示され、対象区域において個別面とまちづくり面のメリットを両立させる効果的方策として、低層高密の敷地計画が示された。連担建築物設計制度について、地域課題の解決へ向けて複数敷地区画を協調的・包括的に計画するという目的志向型の特性と、漸進的な個別更新を連鎖させる活用方法の可能性が明らかになった。単なる接道問題解消の手法に留まらず、場所の潜在性を活かす計画への活用が肝要となることが指摘され、協定等を併用した漸進的整備の可能性や必要とされる法制度の改善・連携の方向性が考察された。

第4章では、「集住体のデザイン・プロセスに関する考察」と題して、第1～3章

の成果を前提として、多様なステークホルダーが参画する合意形成プロセスで有効に機能する方法への発展を試みた。川崎市多摩区でのコーポラティブ住宅づくりを巡る試みを取り上げ、そのプロセスを検証することで、集住体デザインの方法およびプロセスを担う設計者の役割について考察した。また、その成果を基に作成された都市建築の発展と制御に関する設計競技案「環境調和型・連担建築物設計制度による都市集住体」を取り上げ、参加と合意形成のプロセスから生まれるデザインの可能性を検証・考察した。これらのプロセスでは、ステークホルダーの合意形成プロセスを経て計画を深化させ、特定の状況下における最適解を生み出すことが重要となる。社会と地域との関係において実効性を高めるために、法制度等の改善への方向性を提示し、プロセスに関与する建築設計者の職能像とその育成のための仮説的枠組みを示して、デザイン・プロセスでの協応的な関係性形成への可能性を明らかにした。

第5章および第6章では、「デザイン・プロセスに関わる職能の発展に関する研究」と題して、建築設計者の職能範囲の拡充を前提として、前章において提示された3つの発展段階における教育システムと地域への展開の相互作用の枠組みを用いて、申請者が関わった具体の取組みを報告し、検証した。

第5章では、副題を「建築デザイン教育の改善と発展に関する考察」と題して、明治大学の建築教育を対象とし、3つの異なる発展段階での事例について、教育プログラムの内容と運営を検証し考察した。与件からデザインを導くデザイン・プロセスに着目して、各発展段階での場所の解釈を基点とした方法の効果的な活用と、デザインの基盤的技術として重要性が指摘された。また、次代の職能への拡張を前提とし、単なる敷地単位の設計に限定せず、領域的・時間的広がりをもたせて発展させるなど、教育プログラムにおける場所に応答するデザインの方法の位置づけと導入方針が示され、合わせて現状の課題と今後の可能性が指摘された。

第6章では、副題を「社会と地域へ向けた発展的展開に関する考察」と題して、教育プログラムの成果を地域に展開する取組みについて、5章で扱った事例の成果物を活用した3つの異なる発展段階の取組みを検証し考察した。学外での発表・展示等の活動事例を検証し、場所の解釈プロセスの意義や成果活用の可能性を考察した。成果物を発展させた展覧会等の活動は市民の意識や活動を発展させる触媒的作用が期待できること、その課程で職能像の認知を伴う実践的教育効果が期待できることなどが明らかになった。次代の職能への拡張を前提とすると、地域まちづくりとの関係や協応は重要であり、このような活動を効果的に展開するためには、多様なセクターとの協力関係を伴う陣容形成が肝要で、関係性の醸成には時間ファクターが重要であることが指摘された。この方向性は、建築における場所の概念を領域的に敷地から地域へと拡大するとともに、時間的にも先行的な存在を尊重し未来を展望するという環境概念へと拡張することへつながり、さらには社会との双方向性の相互作用を包含するものであり、建築デザインの方法論の発展を考える上でも重要である。

終章は、各章の要約である。

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

氏名 田中 友章 印

(2009年11月25日現在)

種 類 別	題 名、	発表・発行掲載誌名、発表・発行年月、連名者（申請者含む）		
○論文	密集市街地における連担建築物設計制度の活用に関する研究 —川崎市・幸町3丁目における複数敷地区画の協調整備に関するケーススタディー—	日本建築学会 計画系論文集	2008年11月 第633号 P2425-2432	田中友章、入江正之
○論文	建築設計教育の課題設定と運営方法についての考察 —明治大学における設計演習の改善事例—	日本建築学会 技術報告集	2008年6月 第27号 P337-342	田中友章、山本俊哉、 木村儀一
○論文	建築デザイン教育の成果活用の実験的取り組みについての考察 —明治大学建築設計Ⅴおよび大学院設計スタジオⅠに関する事例—	日本建築学会 技術報告集	2007年12月 第26号 P785-790	田中友章、小林正美
○論文	景観協定を活用した複数敷地区画の包括的整備に関する研究—府中市・景観協定区域2事例に関する考察—	日本建築学会 大会選抜梗概	2009年8月 P189-192	田中友章
○論文	川崎市における連担建築物設計制度の運用実態—複数敷地区画の包括的計画手法に関する考察—	日本建築学会 住宅系研究論文 報告会論文集3	2008年12月 P221-228	田中友章
○論文	複数敷地区画の協調整備による住宅群計画に関する研究 —過去10年間の先導的事例の比較による考察—	日本建築学会 住宅系研究論文 報告会論文集2	2007年12月 P225-234	田中友章
論文	大学による継続的な町づくり支援の方法に関する研究 —登戸区画整理事業における専門的支援—	日本建築学会 技術報告集	2006年12月 第24号 P387-392	古市修、小林正美、 田中友章
総説	連担建築物設計制度の活用による協調整備の個別更新の可能性	日本都市計画学会 都市計画	2008年6月 第273号 P59-64	田中友章
総説	都市の集住体としてのカレッジ	住宅総合研究財団 すまいろん 2006年夏号	2006年7月 P66~67	田中友章
○総説	環境調和型・連担建築物設計制度による都市集住体（都市建築の発展と制御に関する設計競技・最優秀賞）	日本建築学会 建築雑誌	2005年6月 第1534号 P22-23	田中友章、西海哲哉
総説	「住宅建築」の向こう Not Less or Ritual, but Memorable	A. D. A. EDITA TOKYO GA HOUSES 73	2003年1月 P154~157	田中友章
総説	失われた場所の記憶を紡ぎ直す ～川崎・臨海部再生への試論	川崎区文化協会 川崎評論, 第18号	2002年12月 P12~15	田中友章
総説	研究室レポート- 明治大学建築学科建築設計Ⅴ 田中友章スタジオ KAWASAKI ARTCAMPS 場所の読み取りをバネにしたデザイン・プロセス	新建築社 新建築, P198~199	2002年3月	田中友章

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題 名、	発表・発行掲載誌名、発表・発行年月、連名者（申請者含む）		
総 説	ホールとアアルトを紡ぐもの	彰国社、建築文化 1998年10月号	1998年10月 P160～165	田中友章
総 説	さまざまな光の集い 聖イグナティウス礼拝堂、発想からの道程	彰国社、建築文化 1997年8月号	1997年8月 P68～71	田中友章
総 説	問われていく作り手の意志 ／建築と都市の「かたち」の狭間で	彰国社、建築文化 1996年8月号	1996年8月 P1	田中友章
総 説	異国からのメッセージ ／母国に対する半憎半愛	A. D. A. EDITA TOKYO GA JAPAN 20, P15	1996年5・6月	田中友章
講 演	建築教育プログラムの成果を地域に展開 する～アウトリーチプログラムの可能性～	日本建築学会大会（中国） 教育部門研究懇談会（広島大学）	2008年8月	稲葉武司、小林博人 田中友章、他5名
講 演	住宅とマチの関係のデザイン -新たなプログラムの展開を目指して	日本建築学会大会（九州） 建築計画部門PD（福岡大学）	2007年8月	杉山茂一、野沢康 田中友章、他3名
講 演	設計者のための木構造セミナー～SE構法 とその可能性～	（株）NCN 新宿明治安田生命ホール	2006年10月	竹原義二、播繁 田中友章、他2名
講 演	都市建築の発展と制御に関するシンポジウム 都市建築の「かたち」と「ビジョン」	日本建築学会 建築会館	2005年3月	小沢明、仙田満 田中友章、他3名
講 演	まちをデザインする新たな土地活用手法 ～コーポラティブ住宅の実践	川崎市住宅供給公社 川崎市総合自治会館	2005年3月	田中友章、甲斐徹郎 杉山昇
講 演	新たな価値づくりのための集合住宅 計画論	日本建築学会 住宅小委員会集合住宅フォーラムWG 建築会館	2005年3月	服部岑生、青木仁、 塚本由晴、田中友章
講 演	特別講義「場所からの建築」	三重大学 工学部建築学科	2002年3月	田中友章
講 演	特別講義「場所からの建築」	早稲田大学芸術学校	2001年11月	田中友章
著 書	社会制度と空間デザイン -住宅と都市のランドデザインをどう構築 するか-	日本建築学会大会（北陸） 建築計画部門PD（金沢工大）	2002年8月	小林秀樹、中井検裕 田中友章、他2名
著 書	景観法活用ガイド 市民と自治体の実践的景観づくりのために	日本建築学会編 ぎょうせい	2008年7月	中井検裕、小浦久子、 田中友章、他12名
著 書	都市建築のかたち 都市建築の発展と制御シリーズⅢ	日本建築学会 日本建築学会叢書3	2007年4月 P127～147	秋山宏、温井亨、 田中友章、他18名
著 書	まちづくり教科書第8巻 景観まちづくり	日本建築学会編 丸善	2005年6月 P84～97	中井検裕、小浦久子、 田中友章、他10名
著 書	厳選 建築家名鑑	エクスナレッジ	2003年11月 P204～207	杉千春、竹内昌義 田中友章、他89名

早稲田大学 博士（建築学） 学位申請 研究業績書

種 類 別	題 名、	発表・発行掲載誌名、発表・発行年月、連名者（申請者含む）		
著 書	YALE JAPAN - Revealing New Ground	YALE JAPAN 2002 実行委員会	2002年6月	光井純、團紀彦、 田中友章、他8名
著 書	30代建築家30人による30の住宅地	ギャップ出版	2000年8月 P92～95	佐々木龍郎、西沢立衛 田中友章、他30名
その他 (口頭発表)	連担建築物を活用した複数敷地区画整備 の研究 ―長野市・ばていお大門の敷地 計画に関する考察	日本建築学会 大会学術講演会梗概集 E-1, P1127-1128	2008年9月	田中友章
その他 (作 品)	本郷のシェアードハウス	新建築社、住宅特集 日経PB社 日経アーキテクチュア	2006年6月 P26～27 2006年5月 P28～33	田中友章
その他 (作 品)	仮設の能舞台 「ク・ナウカで夢幻能なオセローのための」	新建築社、新建築 第9回木材活用コンクール アメリカ建築家協会日本支部 プロフェッショナル部門特別奨励賞	2006年3月 P174～176 2006年5月 2008年11月	田中友章 エクステリア賞 デザイン賞
その他 (作 品)	軽井沢の別荘	建築資料研究社 インポートデザインハンドブック	2005年3月 2005, P20～25	田中友章
その他 (作 品)	遊工房+アーティスト・レジデンス	within SMALL HOMES Page One Publishing Private Limited,	2003年12月 P238～245	田中友章
その他 (作 品)	キアズマ (ヘルシンキ現代美術館)	A. D. A. EDITA TOKYO GA DOCUMENT 56, P8～19 ほか多数の雑誌等掲載	1998年10月	設計: Steven Holl Architects 担当: 田中友章
その他 (作 品)	幕張ベイタウン パティオス11番街	新建築社 新建築, P131～140 A. D. A. EDITA TOKYO GA JAPAN 20, P74～93 彰国社 建築文化, P92～108	1996年5月 1996年5・6月 1996年6月	設計: Steven Holl Architects 担当: 田中友章 (Project Architect)
その他 (展覧会)	二ヶ領用水と円筒分水 時のランドスケープ 展	川崎市 大山街道ふるさと館 主催: 川崎のまち資源を考える会	2004年9月	代表: 田中友章
その他 (展覧会)	YALE JAPAN - REVEALING NEW GROUND 展	YALE JAPAN 実行委員会 イェール大学建築学部 アクシスギャラリー	2002年2月 2002年6月	光井純、團紀彦、 田中友章、他8名
その他 (展覧会)	KAWASAKI ARTCAMPS かわさきの場所と変遷 展	明治大学理工学部建築学科建築設計V アートガーデンかわさき	2001年12月	田中友章スタジオ主催
その他 (報告書)	登戸土地区画整理事業 事業推進委託業務報告書	受託研究機関: 明治大学科学技術研究所 P70～110 P54～71, P85～96 P68～70	2005年3月 2004年3月 2003年3月	共同研究者: 小林正美、田中友章、 他6名